



クリア北京事務所開設 20 周年記念式典を 開催しました！

(一財)自治体国際化協会北京事務所 所長補佐 永江 兆徳 (京都府派遣)

日中国交正常化 45 周年の記念すべき年、2017 年にクリア北京事務所は開設 20 周年の大きな節目を迎えました。

この 20 年の間、日中両国の地域間交流、人的交流は飛躍的に進展しました。今や友好都市の提携数は 364 件、中国からの JET プログラム参加者は 1,300 人を超え、2016 年には約 640 万人の中国人が日本を訪れ、2017 年は 700 万人を超えることが確実です。

今後、日中両国の経済、スポーツ、文化、観光など、あらゆる分野において交流と連携を深化させるためには、地域間のつながりや人的交流を一層密接なものにしていかなければなりません。

2017 年 10 月 31 日、クリア北京事務所は、日中地域間交流の推進をさらに積極的に取り組む決意を示すとともに、これまでの当事務所の活動にご理解、ご協力いただいた方々に感謝の気持ちを示し、さらなるご支援をお願いするために、事務所開設 20 周年記念式典を開催しました。

式典には、在中国日本国大使館の横井裕大使、長野県の阿部守一知事、総務省大臣官房の宮地毅総括審議官のほか、中国外交部、中日友好協会、中国の各地方政府の幹部、JET プログラム経験者など 254 人が出席しました。

主催者・来賓あいさつ

式典では、はじめに当協会の岡本理事長が主催者あいさつを行った後、来賓を代表して、中国外交部外事管理司の廖力強司長、在中国日本国大使館の横井裕大使、中国人民对外友好協会の宋敬武副会長、総務省大臣官房の宮地毅総括審議官の 4 人からあいさつをいただきました。廖司長は「日中両国の友好の基礎は民間にあり、日中関係の前途は両国人民の手の中にある」と習近平国家

主席の発言を引用しながら、日中地域間交流へのさらなる期待を述べられました。また、横井大使は「日中関係が厳しい時にも絶えることなく、日本の自治体が、青少年、スポーツ、文化などの交流の努力を積み重ねた結果、今の日中関係がある」と日中地域間交流の重要性を強調されました。



クリア岡本理事長のあいさつ

長野県の取り組み

中国との地域間交流を活発に行っている自治体として、長野県の阿部守一知事に、本年、友好交流提携締結 35 周年を迎える河北省との交流事例などについてご講演いただきました。

また、2022 年の北京冬季オリンピック・パラリンピック競技大会を見据え、冬季スポーツ分野での青少年交流についての覚書を北京市と締結したことが紹介されました。1998 年に開催された長野冬季オリンピック・パラリンピック競技大会での経験が生かされることでしょう。

最後に、長野県・北京市・河北省の 3 者が握手を交わし、冬季スポーツを通じた友好交流の推進をアピールしました。



(左から) 河北省外事弁公室劉主任・長野県阿部知事・北京市外事弁公室李副主任

自治体と協働した「おもてなし」

式典ではさまざまな「おもてなし」で、出席者に感謝の気持ちを伝えました。

まず、ウェルカムドリンクとして、茶道裏千家北京出張所による立礼式の呈茶を振るまい、日本の伝統文化をPRしました。



茶道裏千家北京出張所による呈茶

鏡開きは、日本酒の輸出振興のための補助金を活用し、日本酒造組合中央会から樽の提供を受け、樽の中には中国でも大人気の「獺祭」を準備しました。

乾杯には、当事務所所員の派遣元の山梨県産のスパークリングワインを用い、在中国の8つの自治体事務所から提供された地酒などを中心に地酒コーナーを設けました。

また、日本各地のゆるキャラのうち、福島県の「赤ペコちゃん」、茨城県の「ハッスル黄門」、群馬県の「ぐんまちゃん」、静岡県「ふじっぴー」、沖縄県の「花笠マハエ」がお祝いに駆けつけて、式典を盛り上げてくれました。



会場内に日本の地酒などを紹介するコーナーを設けた



お祝いに駆けつけたゆるキャラたち

式典の最後には、日本の伝統工芸品を景品とした抽選会を行い、出席者全員への記念品として、富山県高岡市の伝統工芸品である「錫」を現代風アレンジした「すずがみ」を配りました。

また、式典中に当事務所の活動紹介ビデオ、JET 経験者ビデオメッセージ、長野県と富山県高岡市のPRビデオも上映しました。

中国 JET プログラム 25 周年

2017 年は、中国からの JET プログラム実施 25 周年にもあたります。当事務所ではこれを記念し、「JET 経験者里帰り事業」を実施しました。これまでに、中国からの JET プログラムには 1,321 人が参加していますが、訪日ビザの発給要件が厳しいことなどから、帰国後に再度日本の任用自治体を訪れる機会はあまり多くないのが現状です。そこで、再訪により旧交を温め、日中友好交流を一層推進していただくことを目的として、喬紅偉さん（2003～2004 年度 青森県 CIR）、景婷さん（2011 年度 栃木県 CIR）、朱浩昱さん（2012 年度 長崎県 CIR）の 3 人の JET 経験者が里帰りをしました。

そして、開設 20 周年記念式典と併せて、「JET 経験者里帰り報告会」を開催しました。報告会では、里帰り参加者から、「国際交流においても、他者の価値観を認めることが基本であることを再確認できた」、「JET 経験者はリレー選手のように任期終了後に次の人にバトンタッチするとともに、自らの草の根の国際交流事業をさらに続けていかなければならないとの思いを抱いた」など、訪問先での活動内容や再訪を通じて感じた JET プログラムの意義等について報告がありました。



総務省大臣官房宮地総括審議官のあいさつ

また、お祝いの言葉や日本での思い出、これから JET プログラムに参加する後輩に向けてなど、多くの JET 経験者から寄せられたメッセージをビデオ上映しました。

このほか、24 人の JET 経験者から提供された、日本での活動や、現在活躍している様子などの写真を会場内でパネル展示しました。

さらに、57 人の JET 経験者から贈られたお祝いの花が会場の入り口を華やかに彩りました。

このように、当日式典に参加できなかった JET 経験者からもたくさんの祝意が寄せられ、あらためて JET 経験者との深いつながりを感じました。引き続き、当事務所では JET 経験者との連携強化に努めて参りたいと思います。

翌 11 月 1 日には、在中国日本国大使館の主催により、JET 経験者を対象として「日中地域間経済交流」をテーマにセミナーが開催されました。JETRO 北京事務所から「対日投資」、「日中の高齢者産業ビジネスの連携」についての講演があり、各地の地方政府や民間企業で活躍する JET 経験者たちは熱心に耳を傾けていました。



里帰り報告会の様子

頼りにされるクレア北京事務所へ

今回の記念式典では、日中それぞれの関係者に対して、当事務所の「地方自治体」を切り口とした幅広い活動を紹介するよい機会となりました。

現在、日中関係は改善傾向にあり、本年は日中平和友好条約締結 40 周年を迎え、日中地域間交流を深化させる絶好の機会といえます。

これからも、クレア北京事務所は日本のすべての地方自治体の共同海外事務所として、日本の自治体からは、中国に関することはまずクレア北京事務所に相談してみようと、そして日系企業を含む中国の皆さまからは、日本の自治体に関することはまずクレア北京事務所に相談してみようと、頼りにされる存在となるように、引き続き努力していきたいと思えます。

※式典の様子は以下、クレア北京事務所ホームページでも閲覧できます。

○式典概要

<http://www.clair.org.cn/sys/2017/11/08/shikiten/>

○中国 JET プログラム関係（記念冊子、写真パネル、JET 経験者ビデオメッセージ）

<http://www.clair.org.cn/sys/2017/11/16/satogaeri/>